



2023年ファイナンスの総括

2025年5月22日

株式会社キャンバス
(東証グロース 4575)

CBP501は自社で開発を進める**創薬パイプライン型**へ

- 第3相試験完遂までの資金を製薬企業等でなく機関投資家・株式市場から獲得へ
 - ✓ リスクテイク・開発主導権確保・リターン最大化を図る
- 地域や適応で区切った部分導出やその他のアライアンスでアップサイド展開も追求

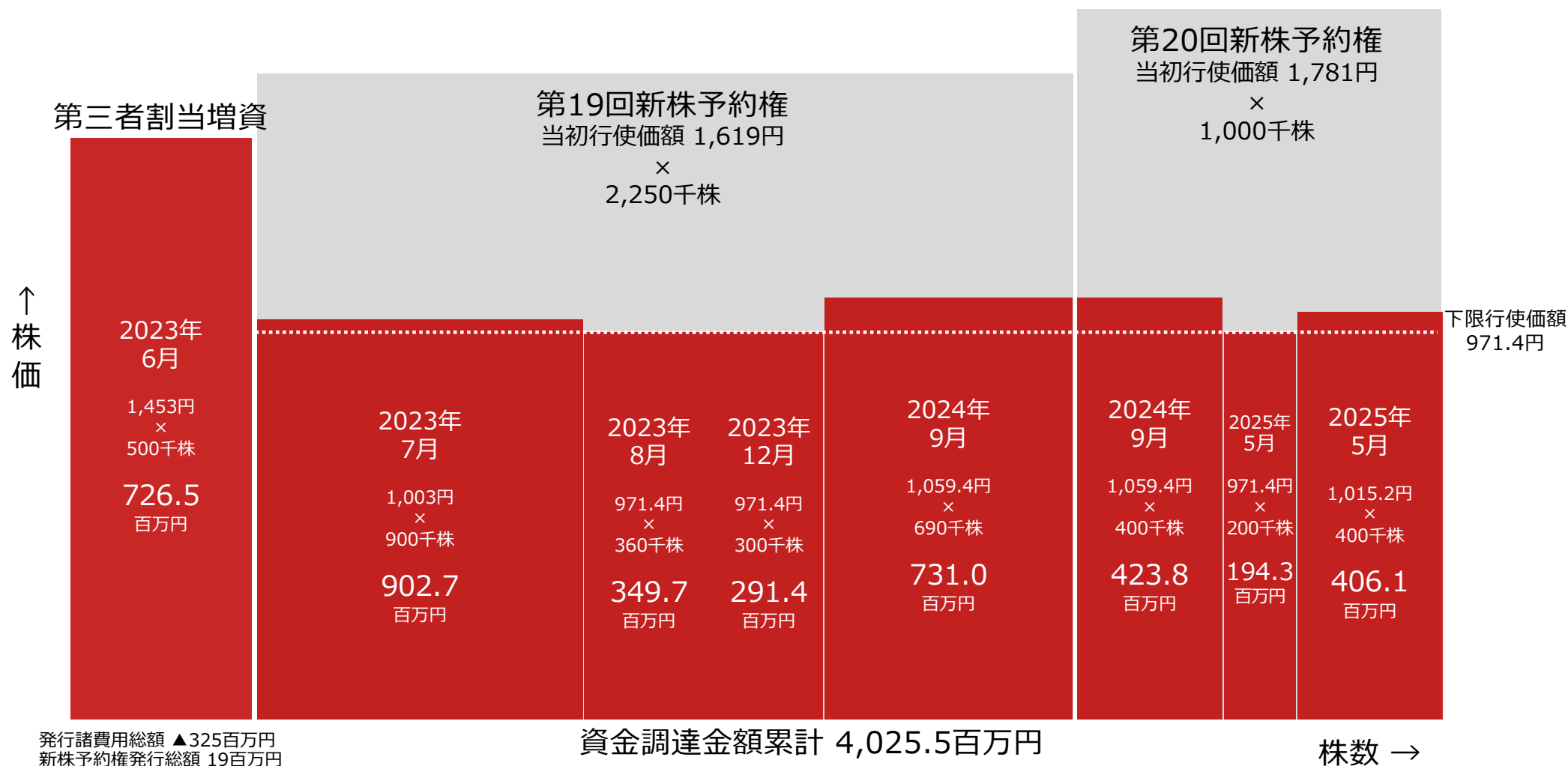
第三者割当新株発行と新株予約権2種の組み合わせ

- 7億円を超える新株発行で、確実な資金をアップフロント調達
- 2種の新株予約権で、株価へのインパクトを抑制しつつ段階的調達を目指す

2種類の新株予約権

- ✓ 第19回新株予約権（行使価額修正条項付き）：確実性の高い資金調達を図る
- ✓ 第20回新株予約権（当初行使価額固定、行使価額プレミアム）：より有利な資金調達を目指す
 - 発行日の1年後以降、行使価額修正型へ自動的に切替
- ✓ いずれも最大行使株式数は固定されており、株価の動向にかかわらず希薄化の規模は限定的

2023年ファイナンス完了までの経緯



2023年ファイナンス：概ね成功裏に完了

- 第三者割当増資・新株予約権行使の合計で40億円超の調達
 - ✓ 7.3億円の確実なアップフロント調達
 - ✓ 新株予約権での調達は約33億円にとどまったが、株価への短期的なインパクトを抑制しつつ平均行使価額1,015.1円（下限行使価額+約4.5%）で段階的調達を実現

今後：臨床第3相試験開始資金に問題はなく、状況に応じ判断・対応

- 第3相試験資金需要と支出時期の不確実性
 - ✓ 当初の見込費用45～50億円
 - 一部は既に支出済み。今後、試験開始時期・プロトコル・実施施設数・被験者組入ペース等によって、費用と支出時期は変動する
- 追加資本政策を検討する場合のポイント
 - 株主価値の毀損や希薄化を可能な限り回避・抑制するタイミングと方法を追求



■本資料に関するお問い合わせ先： 株式会社キャンバス 管理部 IR担当 Email IR@canbas.co.jp